



開催中 第9回寄贈品展—来て見て伝えよう戦争の記憶—

2021年12月7日(火)～2022年2月26日(土)

ピースあいちでは、市民の皆さまから戦争と平和にかかわる資料のご寄贈をいただいています。今回は、26名の方から寄贈された資料115点を展示公開しています。これらの資料は、戦争体験者が高齢化するなかで次世代へ戦争を語り継ぐ大切な役割を担っています。

本展では、日章旗寄せ書きをはじめ、出征兵士を見送った日の丸小旗や横断幕、軍隊手帳、軍用柳行李に保管された衛生兵の白衣や未使用の医薬品、陸軍第三師団(名古屋)でラッパ手が使ったラッパなど軍隊生活を物語る資料が展示されています。また、極寒の地シベリアとモンゴル抑留者の引揚証明書や陸軍の防寒用外套、朝鮮半島からの引き揚げ体験をまとめた遺稿集など外地での苛酷な生活を強いられたことを伝える資料も並びます。そして、豊川海軍工廠へ勤労働員されたセーラー服にもんぺ姿の女学生たちの写真や市立第三高等女学校(現旭丘高校)在学中に綴った12冊の日記、学童疎開と空襲を記録した小冊子など、大人から子どもまで戦時色一色に染められた当時の様子を伝える貴重な資料です。

また今回は、所蔵品展示コーナー「80年前の12月8日をふり返る」を設けました。「開戦80年の今日から見る12月8日の新聞記事～戦況と乖離していく新聞報道～」では、1941年12月8日の真珠湾攻撃を伝える新聞(号外)などを展示しています。

第9回寄贈品展が、新たな戦争の記憶に加わり、平和の大切さを未来に伝えることを願っています。



▶ 第三師団の訓練で使用したラッパ



▲モンゴル抑留者が持ち帰った本人と戦友の水筒



▲白衣や医薬品が保管されていた軍用柳行李



▲陸軍の防寒用外套



◀1941年の真珠湾攻撃を伝える号外



予告 猪高中学校生徒の平和新聞 ～ピースあいちを見学して～

第1期/2022年1月25日(火)～2月12日(土)
第2期/2月15日(火)～3月12日(土)

今夏「ピースあいちを見学して平和新聞を作る」という目的で、名古屋市立猪高中学校から連日1、2年の生徒たちが来館しました。

2学期になって、指導担当の教諭から完成した生徒の新聞が届けられました。手作り感あふれる新聞は、中学生ならではの疑問や視点でまとめられた力作です。全350枚余の内から一部をプチギャラリーで展示します。

予告 「戦時下の地震—隠された東南海・三河地震」展

2022年3月8日(火)～5月7日(土)



先の戦争末期、1944年12月7日に東南海地震、1945年1月13日に三河地震が発生しました。

東南海地震は中部地方と近畿地方に大きな被害をもたらしました。1200人余の犠牲者のうち90%以上が愛知・三重・静岡に集中しています。愛知県内の犠牲者のうち最も多かったのは半田(188人)、次に名古屋(121人)。軍需工場の建屋が倒壊し、その下敷きになって亡くなった方が多かったのです。そこには勤労動員された学徒たちも居ました。

三河地震は西三河地方の碧海郡・幡豆郡・宝飯郡

を中心に東南海地震を上回る2300人余が亡くなりました。集団疎開していた名古屋の国民学校の児童が多く含まれていました。

それぞれの地震がどのようなもので、戦時下という特殊な状況下どんな被害をもたらしたかを見ていきます。当時、行政当局はかなり正確に被害状況を把握しながらそれを報道させず、したがって濃尾大地震(1891年)の時のように全国規模の救援もされなかったことがわかっています。また外国の新聞はどう報じたか。2011年の東日本大震災の報道と合わせて紹介します。

予告

名古屋大空襲から77年 ～犠牲者追悼の夕べ～

2022年3月12日(土) 16時～



名古屋の空襲被害者の三分の一以上が集中する1945年3月の空襲(12日、19日、24日、31日)。狙われたのは市民の生活の場でした。今年もピースあいち前庭で犠牲者の追悼を行います。



昨年の「犠牲者追悼の夕べ」

「野間美喜子記念文庫」ができました

本年5月9日に「野間美喜子さんを偲ぶ会」が開かれました。この日に向けてご遺族からピースあいちに寄贈された書籍を整理分類し、書棚をピースあいちの1階に新しく設けて、「野間美喜子記念文庫」として整備しました。

野間記念文庫は総数818冊となりました。「憲法・司法」「軍事・安全保障・人権」「戦争・戦争体験」など10の分野に分類し、約700冊がこの書棚に収められています。館内での閲覧ができますので是非ご活用ください。



野間美喜子記念文庫(1階階段下)

報告

企画展『少女たちの戦争～青春のすべてが戦争だった』 無事閉幕しました

7月13日(火)～9月25日(土)

コロナ禍での一年延期を経て、1600人にご来館いただきました。地元の学校史や雑誌『少女の友』の表紙絵の変遷などを展示し、少女たちの夢や希望が戦火に押し潰されていった様子をお伝えできたと思います。



名古屋市立第三高等女学校への空襲の体験者であるボランティアの望月菊枝さんが来館された日には、居合わせた女子中学生たちが望月さんを取り囲み、当時の出来事や気持ちなど、たくさんの質問をしていました。「この時の私は、皆さんと同じ14歳でしたよ」と優しく語りかける望月さんと、それを見つめる少女たち。戦争が、彼女たちにとって遠い昔の物語ではなく、75年余の時を超えた『自伝』として胸に残ってくれたら、と願っています。



○来場者アンケートから

- 同じ歳くらいの子たちが学校へ行けず働かされていたり、女性の立場が今よりずっと低かったりと、今の価値観ではありえないことが当たり前とされており、衝撃を受けました。このような世の中にまた戻らないよう、私たちが責任を持って、平和を保つための行動を取っていかねばならないと感じさせられました。(14歳女性)
- おざわゆきさんの漫画が好きです。当時の少女たちが、今の少女たちと同じ感情をもっていたことも自然に入ってきて、戦争の恐ろしさが実感できました。(61歳女性)
- 少女から見た戦争という視点が目新しく、戦争の悲惨さを再確認することができました。(28歳男性)
- 母が豊川海軍工廠に学徒として働いていて空襲にあいました。今91歳。今回の企画展と同世代でしたので、初めて訪れました。(62歳男性)
- 涙なしではみられませんでした。15年戦争と並行して10代～20代(青春時代)を過ごされた方、特に軍需工場へ強制動員され、命を落とした人、そして、なれない仕事に大切な手指を切断してしまった方、どうして償うことができるのでしょうか。(77歳男性)
- 日常の中に戦争が入り込む感じがひしひしわかりました。生理用品のこたを取りあげてくれてあったのも、とてもよかった。若い女性からみた戦争が、しっかり伝わりました。(58歳女性)
- 少女たちの戦争の企画は、まさに親が経験してきたことで、彼女達の証言を読むことで目に浮かんでくるように思いました。さっきまで、いっしょに働いていた仲間が瞬間で亡くなるという体験は、想像を絶するものと思います。(65歳男性)
- マンガ等を用いて初心者にもわかりやすく解説されていたのが印象的でした。貴重な資料等も多く展示されていて、遠くから来たかがありました。(51歳男性)
- 戦時中に書かれた日記やとんとん軍事色を増していく少女雑誌の表紙などさまざまな資料を見た。言論や思想の自由がどれだけ大切なことか分かった。(13歳女性)
- 「日本はどうなってしまうの?」「いったい何のために?」少女たちはそんな疑問さえ抱かず、軍需工場で働いていた。私は今まで政治は大人の世界のもので他人事だと思っていましたが、自分にも関係あることだと気づくことができた。(13歳女性)

間仕切りができました

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館中に、1階交流のひろばと事務所との間に間仕切りができました。狙いは、高さ90cmのキャビネット上の空間を有効活用して資料の収納場所を増やすとともに、交流のひろばで戦争体験の語り等のイベント時に電話等事務所の話し声が届かないようにするためです。設計にあたって留意した点は、交流のひろば側の壁面を1階展示壁面と同じ色調にすること、透明の素材を使用してひろばが見通せるようにしたこと。設置後、ボランティアさんから「明るくなったね」と言われ、ホッとしています。



夏の
戦争体験語り
シリーズ
2021



「2021年・戦争体験を聴くシリーズ」が8月1日(日)から15日(日)まで計10回開催され、ピースあいちの語り手、語り継ぎ手の方たちが、日替わりでお話しました。今年、会場(ピースあいち)とオンライン配信で。事前に

語り手・語り継ぎ手の方と打ち合わせを行い、お話をよりリアルにと画像や動画の準備、当日はZOOM機器操作など多くのスタッフが参加しました。文章はピースあいちのスタッフがまとめました。

8月1日(日)「腹話術で伝える父の沖縄戦」

(語り継ぎ)

柳川たづ子さん

父(日比野勝廣)は19歳で志願兵として入隊し中国に渡った。21歳の時に沖縄に移り、沖縄戦の惨劇を目の当たりにする。初めは沖縄戦の激戦地の1つ嘉数高地で20日間戦い、戦況が悪化したため安波茶に南下し、そこでも20日間戦う。足と腕に怪我を負い破傷風になり、周りの人に運ばれて糸数アブチラガマに移る。戦争が終わっても父の中では、戦争はまだ終わっていなかった。戦争は時が経つにつれて消えていくのではなく、人の心を蝕み、生き続けているのだろう。(辻井記)



8月5日(木)「父親の兵士戦場体験」(語り継ぎ)

青木正雄さん

1944年3回目の召集で砲手として特設砲隊に配属された父親の数雄さんは、「1万人の墓場」とも言われる壮絶な戦いが繰り広げられたペリリュー島で戦死した(享年33歳)。20年後の2013年8月、父の遺品(祈武運長久の日章旗)が日本人留学生に託され、手元に戻った。(お父さん!お帰りなさい…)と何度も抱きしめた。この遺品を「あの戦争の悲惨さを見つめ直し、これからの日本を今こそ考えてほしい」という父からの言葉として受け止め、99歳まで語りを続けますと強い意志を示されました。(高橋記)



8月6日(金)「私のヒロシマ」(語り継ぎ)

佐々木陽子さん

広島出身で平和教育を受けてきた佐々木さん。国民学校の校長だった父方の祖父は、学校に運び込まれる死者や負傷者の対応に追われ、生き地獄を見ながらの毎日だったという。また軍医だった母方の祖父は救護活動のさなか勤務先で倒れ、亡くなるまでの数日間を綴った祖母の看病の日記が、このほど見つかった。祖父母らの壮絶な原爆体験を知るに及んで、自分の問題としてヒロシマを語るようになったという。朗読された日記からは、最愛の夫を失った祖母の慟哭が聞こえるようだった。(荻野記)



8月7日(土)「勤労働員・空襲体験」

筧 久江さん(89歳)

1944年4月に名古屋市立第三女学校(現旭丘高校)に入学。その年の9月に三菱電機へ勤労働員することになり、まともに勉強はできなかった。仕事は戦闘機の灯りの部分を担当。翌年1月23日、空襲警報が鳴り防空壕へ避難する。すると、地震よりも酷い凄まじい衝撃音がし、近くに爆弾が落ちたのだと分かった。この空襲で42名の学友が亡くなった。8月15日、玉音放送を聴き戦争が終わったことを知る。学友と一緒に泣き、命が助かったと思った。悲惨な戦争は二度としてはいけない。(辻井記)



8月8日(日)「斎藤孝さんの戦争」(語り継ぎ)

近藤世津子さん

「白線のスカートと思う終戦日」「爆弾の落ちてこぬ空運動会」

冒頭に斎藤さん作の俳句2句が出された。そして、斎藤さんの自宅を襲った1945年5月17日の空襲を語る。終戦の日、人々はいろんな反応をしたが、斎藤さんは「家に帰れる」と思った。3日後に見た女学生のモンペではない、縦に1本の白線のはいったスカート姿が平和と結びついた。斎藤さんは子どもたちに、「自分で考えてほしい。言われたことをうのみにせず、自分の頭で考えてほしい。これが平和につながる一歩だ」と語った。(東野記)



8月11日(水)「空襲・疎開体験と戦後の暮らし」

小笠原淳子さん(89歳)

大きな桶を棒で担ぐ2人の少女が、シンプルな線でスケッチされている。「これ、どっちが私?」小笠原さんがこの画を掲げると、最前列の男子児童

たちが、「後ろの子だ!」と反応する。「何、運んでいるかわかる?」「ウンコやオシッコなの!」小笠原さんは、焼夷弾や防空頭巾の実物も使って、疎開や空襲の体験を等身大に語りかける。戦後、同級生から来た手紙についても触れた。疎開当時の周囲の態度を、今も恨んでいるという。「あの頃は、自分の事しか考えていなかったな」と自省を口にされた。(平岩記)



8月12日(木)「名古屋空襲の体験」

津田さゑ子さん(83歳)

どの小学校にもあった「奉安殿」、「二宮金次郎」の写真から当時の天皇の位置づけや勤勉・実直・節約の考えを洗脳された。教育は実に大きな力を持つ。3月19日の空襲で我家は焼けた。焼夷弾であたり一面焼け野原になり、それまで毅然と振舞っていた父が全てが無になったことで虚脱感に襲われるのを見た。鶴舞公園にはまるで物のように積み重ねられた死体の山があった。近くの親戚を頼って生き延びた。人との関わりを大切に、皆さんも人との関わりを大切に一回限りの人生賢く生きてほしい。(長谷川記)



8月13日(金)「疎開・空襲体験」

乾 正男さん(88歳)

1944年国民学校6年生の時、伊勢市に学童疎開をしていた。翌年3月19日、卒業式のため名古屋市栄の家に帰って来て空襲に遭った。ヒューっと音が聞こえて爆弾が落ちてきた。その音が聞こえたら両耳を指でふさいで、両手で目を押さえて地べたに伏せる。鼓膜が破れたり目が飛び出さないようにするためと教えられていた。爆弾は松坂屋建物の北側に落ち、西側にいた私たちは間一髪助かったが、犠牲になったたくさんの方の悲惨な亡骸が強烈に記憶に残った。そのため今も、身内の葬儀でも最後のお別れができません。(熊本亮記)



8月14日(土)「学徒勤労働員の体験」

都築基雄さん(90歳)

1944年旧制中学2年になると、退役軍人による軍事教練が始まった。銃剣術の訓練では、敵兵の体の中に木銃をねじり込んで突き殺すよう教わった。2学期から豊川海軍工廠へ勤労働員され、弾丸製造に従事した。翌年8月7日豊川大空襲で豊川工廠は壊滅し、親友を失った。死体処理を命令され、体がバラバラになった遺体をリヤカーで焼き場へ運ぶ途中、防空壕で折り重なって死んでいる女学生達を何回も見た。その痛ましい姿は、目に焼き付いて忘れられない。9月に授業が再開され、ようやく平和が戻ってきたと感じた。(橋爪記)



8月15日(日)「名古屋空襲の体験」

森下規矩夫さん(83歳)

1944年12月13日に三菱発動機工場への空襲があり防空壕へ避難する。近くで爆弾の炸裂音がまるで雷が落ちたように鳴り響き、怖くて震えが止まらなかった。この空襲で家が焼失したため、伯母の家に避難する。1945年3月19日に夜間爆撃。防空壕に避難するが爆撃が激しくなり、郊外に逃げる。いつの間にか家族とはぐれ、気づいたら自分一人だけ田圃にいた。周りは火柱が上がっていたが幸いにも助かった。家族とも再会できた。その後、三重県鈴鹿市に縁故疎開する。この戦争で苦しみと悲しみが残った。(辻井記)



報告

**愛知・名古屋戦争に関する資料館主催
戦争体験談を聞く会に語り手派遣**

愛知・名古屋戦争に関する資料館では毎年、戦争体験を次の世代に伝え、平和の大切さを学ぶため、夏休み特別企画として「戦争体験談を聞く会」と「専門家による特別講座」が開催されています。参加者は小学生から高校生及び保護者です。コロナ禍のため募集人数は各回20人。ピースあいちは語り手派遣の委託を受けており、7月31日(土)～8月11日(水)の期間中に語り手・語り継ぎ手8人の方に空襲、被爆、学童疎開等の体験を語っていただきました。子どもたちから質問・感想がよせられ有意義な会でした。



<各地での「語り」>

●愛知・名古屋戦争に関する資料館 戦争体験を聞く会		
7月31日	満州からの引揚	橋本 克巳さん
8月1日	学童疎開	八神 邦子さん
8月2日	岡崎空襲	高山 孝子さん
8月3日	学童疎開	佐藤 誠治さん
8月4日	空襲体験	澄谷三八子さん
8月9日	長崎被爆体験 語り継ぎ	大山 妙子さん
8月10日	空襲体験	中野 見夫さん
8月11日	空襲体験	井戸 早苗さん
7月31日	●緑区戦争体験を語り継ぐ会 満州からの引揚げ	松下 哲子さん
8月8日	●日進平和の集い 祖父と歩むヒロシマ	愛葉 由依さん
8月10日	●貴船小学校トワイライト 絵本で語る戦争と平和	丸山 泰子さん
8月16日	●平和を祈る一日 勤労働員と学校に爆弾が落ちた日	望月 菊枝さん

報告

**ピースあいちも参加しました
あいち平和のための戦争展**

今年の戦争展は8月12日～15日まで矢田市民ギャラリーで開催され、1113人の入場者がありました。実行委員会形式で行われる「戦争展」、愛知県下の36団体の展示がありました。ピースあいちは「戦争とスポー

ツ」を展示。また、ピースステージには、「従軍看護婦・杉本初枝さんの戦争体験の語り継ぎ」原田和果さん、「10歳の学童疎開体験」木下信三さん、「朗読・にんげんをかえせ／峠三吉詩集より」朗読の会オリーブが参加しました。

参加された方からは、「従軍看護師の語り継ぎを聞き、証言を語り継ぐことは大切だと思った。」「オリーブの朗読は素敵だった。」などの感想が寄せられました。



報告

コロナ対応と受託事業の開始

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応で4月、5月は臨時休館となりましたが、その後は感染対策に留意しつつ少人数のスタッフで「沖縄展」、夏特別企画「少女たちの戦争展」、「戦争の中の子どもたち展」「戦争と動物たち展」、「第9回寄贈品展」を開催してきました。

資金面では、経済産業省の8月の月次支援金を申請したり、文化庁の「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」補助金を申請して、なんとかコロナを乗り切るようにつとめています。

愛知県と名古屋市から受託する平和学習支援事



業(小・中学校への戦争体験の語り手の派遣)も10月22日の東郷町立兵庫小学校を皮切りに名古屋市内4校、名古屋市を除く愛知県内7校に対して始まりました。来年の1月13日まで続く予定です。

シリーズ
平和を守る仲間たち⑫

参観者との交流が大きなバネに
～『あいち・平和のための戦争展』の30年

毎年8月の風物詩・平和賛歌の『あいち・平和のための戦争展』が、今年30回を迎えたところです。参加各団体はじめ支えていただく県民・市民の皆様には厚くお礼申し上げます。

戦後47年(1992年)の、第一回戦争展は、その時点の県民・市民の「戦争と平和に関する問題意識」や平和運動がつくり出したもので、その後続く『戦争展』を方向づけました。

あいちの『戦争展』は、戦争と平和のテーマを、加害・加担・被害・抵抗・連帯の各側面ととらえ直す点で特色があります。アジア太平洋戦争の惨禍を地域でほりおこすコーナーはとくに目を見張らせます。戦後の「冷戦」および戦争と隣り合わせの「日・米基軸」状況

に鋭くせまるコーナーでは議論がふくらんでいます。

年間の活動をパネルで表現したり、会場での設営作業はもちろん難儀です。しかし、展示会場に足を運んでいただいた方々との出会いと交流、メッセージの交換は、それが「刺激的」「想定外」であればあるほど、以後の活動にとっての、大きなバネになって、『戦争展』は続くのではないかと考えます。

この30年の活動を、小冊子『記録・記憶・継承～あいち・平和のための戦争展』30年記念誌』(2021年8月)にまとめましたので、ぜひ手に取っていただければ幸いです。

『あいち・平和のための戦争展』実行委員会
小出 裕



ボランティアの窓

たかがオンライン、されど…

平岩 潤



映画を見るのが好きです。年150本以上、劇場で見ます。遠方の映画祭へ足を運べば、寝る時間以外は会場をハシゴします。しかし、コロナ…。必ず訪ねていた山形国際ドキュメンタリー映画祭は、今年オンライン開催になり、最初はがっかりでした。

でも、今ははっきりわかります。オンラインには、オンラインの良さがある！移動が不要で、費用は節約。鑑賞に充てる時間が増え、例年以上の本数を見ることができました。海外にいる監督との質疑応答も、オンラインならではの。

ピースあいちでも、オンラインの催しが増えてきました。対面の良さはもちろんですが、オンラインで広がる可能性も必ずあります。皆さんも、前向きに考えてみては、いかがでしょう。不慣れな方には、お手伝いしますよ。

未来の子どもたちへ
つなぐバトン

橋爪 玲子



コロナ禍で外出自粛の折り、両親の遺品整理をしました。ずっしりと重い古びたアルバムを開くと、そこには学徒兵として東海五部隊へ入営した父と豊川海軍工廠に勤労働員された女学生の母の姿がありました。

NHK朝の連続テレビ小説『カムカムエヴリバディ』の稔と安子に同時代を生きた両親が重なりました。死と隣り合わせの時代を生き抜いた両親が、私の子どもから孫へと命をつないでくれたのだと改めて気付かされました。

資料館探訪 30

松代象山地下壕(長野県)

松代大本営地下壕は、アジア太平洋戦争の末期、軍部が本土決戦最終の拠点として極秘のうちに、大本営や政府機関等を長野県のこの地に移すという計画の下、1944(昭和19)年11月から終戦の日まで掘削したものである。舞鶴山を中心として皆神山、象山に碁盤の目のように掘り抜かれ、その延長は10キロメートル余りに及んでいる。

真田十万石の美しい城下町松代を南へ歩いていくと、象山地下壕に着いた。見学できるのは約500メートルの区間で、入場無料だ。ヘルメットをかぶって入っていくと、一陣の風に吹かれた。涼しい素掘りのままの状態でも凹凸している。ところどころ横に延びる壕は、未完に終わっているものもあれば、暗闇に続くものもある。安全対策で補強されているが、水滴がここかしこに。今は、投光器に照らされ、非常用電話も設置されているが、暗闇からふいと誰かが現れてきそうな圧迫感、閉塞感、あの時代の重みが伝わってくる地下壕だった。(H.N)



月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

「ピースあいち」の会員になって、戦争と平和について考えてみましょう。

「戦争と平和の資料館 ピースあいち」の財政は、基本的に3本立てで賄われています。一つは年会費です。2021年秋現在、正会員363人から6000円、賛助会員463人から3000円をいただいております。二つめは入館料収入です。ピースあいちでは年間を通じて各種企画展示を行っているほか、常設展示も行って、それらを見学においでの方々からいただく入館料は、大人300円、小中高生100円です。三つめは寄付金や助成金収入です。これは時に大きな助けになりますが、残念ながら確実に入ってくるものではありません。

一方、支出は年間平均して1100万円ほどが必要です。多くを善意の方たちやボランティアにお願いして経費を抑えています。財政は基本的に不安定です。これを安定させなければ、ピースあいちの運営の安定もありません。

そこのお願いです。正会員でも賛助会員でも結構です。会員になって「ピースあいち」を支えてください。思い立ったら吉日、電話・FAX052-602-4222へご一報下さい。

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
冬期 12月25日～2022年1月5日
- 入館料 大人 300円 小中高生 100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

2ページの「戦時下の地震」の記事にある「碧海」「幡豆」「宝飯」は、小中学生でもフリガナなしで読めるのかなあ。印刷前のゲラ刷りを見ながら、そんなことを思っていました。三つとも、以前は三河地方の郡の名前でした。その後、その名前を付けた郡がなくなり、この地名に触れる機会も少なくなりました。去る者は日々に疎し、です。「ピースあいち」はどうでしょうか。今のところ、大丈夫です。「戦争と平和」を大テーマに分かりやすい展示を企画していきます。(K.S)